千代田区労協通信 2023/11/6 №62 千代田区神田三崎町 2-19-8 TEL03-3264-2905

10月28日 第68回千代田区労協定期大会開かれる

実質賃金の引き上げ、消費税減税、労働者の権利と戦争、大軍拡に反対し平和守る、労働争議支援積極的に、区労協の組織強化を

2024年も茂呂議長体制で

2023年10月28日、水道橋の全水道会館において第68回千代区労協定期大会が開催されました。水久保副議長の司会で始まり、大会議長団と大会運営委員が選出され、実教出版労組の河合代議員と千代田区職労の留場代議員の2人が議長に就き、議事を進行しました。

冒頭挨拶する茂呂千代田区労協議長

冒頭に茂呂議長があいさつし、この1年を振り返りながら、『物価高騰で皆さんは大変な生活を送っている。若者は海外に働き場所を求め、日本の3倍の賃金を得ているという。日本の低すぎる賃金構造が労働者不足を招いている。一方で、円安で海外からの労働者も少なくなっている。空洞化が進んでいるのに政治は無策である。それどころか、軍事費倍増などでまともな経済政策を行っていない。最近になって、減税や一時的な給付金などを言い出したが、「消費税減税」など国民の暮らし改善に結びつく政策が強く求められる。少子化対策にしてもその原因に目を向けずに給付金で済ませようとしている。低賃金で将来の暮らしが見通せないままでは解決にならない。今日一日の議論を通じて、普通に働いて、安心して暮らせる社会をめざして、単組だけでは解決できないことを区労協の活動で進めていきたい。』と述べました。

大会議長団
千代田区職労の留場さん、実教労組の河合さん

来賓として東京地評の屋代眞事務局次長、千代田区労連の香取義和議長、旬報法律事務所の大久保修一弁護士、「戦争させない千代田の会」から前千代田区議の木村正明さんが挨拶しました。

屋代さんからは『千代田と言えば、平和と民主主義の課題で先駆的な取り組みを行ってきたことが評価される。ロシアのウクライナ軍事侵攻やイスラエルのガザ地区への空爆が日々続き、戦争を止めるために憲法9条を持つ日本の役割が大きくなっている。また、賃金が上がらず暮らしが大変な今こそ労働組合の役割も大きくなっている。共に闘っていこう。』。香取さんは『高卒で国家公務員となり、50年になる。今は単組

が大変だからと地域に出てこなくなっているが、地域に根を張り、運動を継続することが大事だ。そのためにも楽しい活動を行うことも必要である。』。大久保さんは『岸田首相の所信表明演説では国民の暮らし改善が見通せない、内閣支持率も下がり続けていると指摘。特に若者の支持率が13%に過ぎず、このような政治は一刻も早く転換しなければならない。悪政を終わらせるには労働組合の活動が欠かせない。』。木村さんからは『毎月の戦争させない千代田の会のリレートークは84回になり、一致点での共闘はますます重要になっている。区議会では核保有や改憲もタブー視せず学校教育に求める動きもあるが、高知・徳島の補欠選挙で勝利したことは野党共闘の必要性を示している。今後も一緒に闘っていきたい。』と各々発言がありました。

23年度活動報告及び24年度運動方針(案)について里見副議長から提案され、続いて小林事務局長から23年度会計決算報告、青木会計監査から監査報告がありました。24年度会計予算(案)について提案の後、休憩をはさんで質疑・討論に入りました。

討論では発言時間を１人５分以内とし、代議員だけでなく争議団等からの発言も認められました。

2010年12月31日に解雇された**JAL争議**は13年近くになります。2年間の業務委託請負提案を受け入れて、争議団の４分の３が争議を終わりましたが、35名が今も争議を続けています。争議団の斎藤さんからは現在都労委で審議が継続していることが報告され、12月22日にはJAL本社前で1,000人規模の大包囲行動を行うということで、参加が呼びかけられました。

斎藤さん

ユニオンちよだの増渕代議員からは最近の活動状況について、「自分が加入した４年前は７０人程度の組合員だったが、今は１６０人を超すまでになった。労働相談も年７０～８０件が寄せられ、労基署や東京地評など様々なところから紹介を受けるようになっている。今年の特徴として、都労委に持ち込むことが増え、SNS戦略で解決に持ちこんでいる。今後はHPやSNSによる宣伝を広げ、労働相談体制を強化し、千代田争議団・千代田区労協と共に闘っていきたい。」と発言がありました。

増渕さん

明乳争議団の額賀さんは、38年にも及ぶ長期争議の概略と都労委の審判で解決をめざしていること、64名中24名もの争議団員が解決を見ることなく亡くなっていることからも早期の解決をめざしていることを発言しました。

額賀さん

区職労の小川代議員からは、10月10日に出された2年連続の引き上げ勧告は25年ぶりの大幅増と言っても物価高騰に対しては微々たるもので生活改善には程遠いこと、若年層以外は1,000円台で納得いくものではないなど勧告の問題点について述べ、そして日比谷公園の再開発で多くの木が伐採されようとしているので反対運動への協力が呼びかけられました。

小川さん

ここで留場代議員が補足発言を行い、追加資料で配布された組合作成のリーフレットを使って国家公務員と比べても低い水準であるだけでなく、初任給に至っては地域手当の20%を含めてようやく最賃要求の1,500円に届くことが紹介されました。

井上さん

AGCの子会社である**AGCグリーンテック**の井上さんからは、2008年の入社以来時代錯誤の男女差別が行われているので、争議への裁判傍聴などの協力・支援が呼びかけられました。

今年３月に突然、会社側が廃業して都労委で闘っている**西陣労組**の代議員が都労委審判前の準備で退席したため、水久保さんから代理発言がありました。大手パチンコメーカーだった同社の突然の廃業は経営不振によるものでなく親会社による不当な圧力によるものであり、労働者を切り捨てたものであること、会社側が労使交渉を拒否したため都労委に訴え、ようやく 12 月に証人尋問を迎えること、早ければ年度内に決定が出る重要な山場となっていることが報告されました。あわせて JAL 争議も重要な局面であり 12 月 22 日のJAL本社前の大集会には、区労協から50人以上が参加して1,000人以上で包囲しようと呼びかけました。

全経済特許庁支部の小池代議員からは、物価高騰には見合わない低い水準の勧告についてふれられ、賃金闘争は共に協力して闘うことが必要と述べ、霞国公で取り組んだ残業実態調査について報告がありました。申告した分の残業代は支払われるようになったが、仕事が終わらずに申告せずに残業している、80時間を超すと上司のヒアリングを受けなくてはならないためそれ以上は申告しない実態があることが報告されました。また、最近話題となっているラーメン店の「1,000 円の壁」についてふれ、光熱水費などのコスト増による倒産が増えていることを紹介して1,000円を超すようになった最賃も共通点があるのではないかということが発言されました。

小池さん

ここで討論が終了し、里見副議長のまとめの発言を受けて、大会運営委員会報告で修正案はなかったこと、決議案は執行部提案の２本であること、採決については一括して拍手による採択とすることが報告されました。すべての報告と提案が拍手で採択され、決議案の採択に移りました。

「平和と民主主義、憲法を守る決議案」を船越常幹、そして「すべての争議の早期解決をめざす決議案」を小番常幹が読み上げて提案し採択されました。

2024年度役員について報告があり、副議長の水久保さんとユニオンちよだの鈴木さんが退任し、新たに小番さんが副議長となり、ユニオンちよだから新たに増渕さんが常任幹事になりました。退任される水久保さんから「労働運動に参加したのは１９６５年のメーデーからだ。」とあいさつがあると、自分が生まれる前から闘い続けたことに驚きの声もありました。最後に茂呂議長の団結ガンバローで大会を終了し、新たなたたかいの決意が固められました。（千代田区労協常任幹事　小泉剛志）

※　皆さんからの投稿、感想・ご意見などお待ちしています。

※　**千代田区労協通信バックナンバー／**http://www.chyda-kr.org/kuroukyou_news2020.htm

鈴木真理さんの退任挨拶要旨

常幹６年やらせていただき、様々な経験をしました。千代田総行動で社前、要請行動などで、争議を解決してきました。今回、ユニオンちよだの増渕さんとの交代になります。２名出してほしいと言われましたが、ユニオンちよだで労働相談、交渉など多く多忙です。今月も10回の団体交渉をしています。

一旦退任しますが、ユニオンちよだを強化し２人出せるようになって、女性などを選出し、帰ってきたいと思います。交代する増渕さんは、やる気満々。よい意味で嵐を巻き起こすと思います。どうぞよろしく。

増渕保志さんの新任挨拶要旨

ユニオンちよだの増渕です。今回、鈴木真理さんと交代となりますが、よろしくお願いします。ユニオン

ちよだでは、ブラック企業相手に団体交渉でいきりたっています。区労協では、本来の自分として、温厚でやっていきたいと思います。

水久保文明さんの退任挨拶要旨

退任挨拶する水久保さん

永い間、ありがとうございました。昨日、自宅のメールを開けてびっくりしました。いつもは、10数通位なのが40通位来ていました。「区労協退任、お疲れ様でした」との労いのメールでした。これまで関わってきた仲間の感心にうれしく思いました。

私が、労働運動に関わったのは、1965年のメーデーに参加したときからです。労働運動の第一歩でした。

それ以来、58年間、特に千代田地域で労働運動をしてきました。千代田区労協との関わりは、1967年。当時の私は、定時制の高校生でした。新聞配達の職場で組合を作ったために首を切られました。高校生争議団となって千代田区労協と関わり運動したのです。一時期民間に努めましたが、その後、毎日新聞労組の書記となり、千代田区内で労働運動を続けました。毎日新聞は、一旦つぶれましたが、再建のために労組が取り組みました。再建闘争を進めるときに、千代田総行動がありました。千代田総行動は、1975年位から始まったと思いますが、要求をみんなで持ち寄って、よってたかって企業などに要請し、解決を迫りました。旧労働省の中庭に5つのデモ隊が終結し、2万人が集まりました。毎日労組は、指名ストを行い、100人が参加しました。

私は、千代田の仲間たちに支えられ、運動を進めてきました。そして、最初に、労働運動を進めるにあたって、先輩から言われたことは、組合活動をするには、賃上げなど要求実現を目指すのは当たり前。そして、争議支援はしなくてはならない。なぜなら、争議をたたかっている人々は、合理化の頂点にいる人々だから、そこを労働組合が支援することが絶対に重要です。それ以外には、①仲間を増やすこと、②反戦平和の運動を行うこと。戦争になったら、労働運動はあり得ないからです。③文化の取り組みを行えと言われました。

私自身、まだまだですが、毎日新聞労組のとき11年、私の前任の伊部事務局長から引き継いで16年、区労協事務局長としてやってきました。

今、後期高齢者になったとろで、退任させていただきます。しかし、まだまだ、課題はあります。JALの争議を勝たせたいので、これからも区労協に関わっていきますので、よろしくお願いします。

大会後の懇親会で労いの花をもらう水久保さん

千代田区労協の役員体制

議長	茂呂文彦（実教出版労組）
副議長	里見一司（日本ケミファ労働組合）
副議長	小番孝也（新）（電算労東和システム支部）
事務局長	小林秀治（千代田区職労）
事務局次長	橋口文明（区労協事務局）
常任幹事	渡邊孝一郎（全経済特許庁支部）
同	船越賢明（法会労旬報法律事務所分会）
同	増渕保志（新）（ユニオンちよだ）
同	小泉剛志（千代田区職労）
会計監査	伏木野英雄（全経済特許庁支部）
同	青木和代（ユニオンちよだ）